

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会 会議録			
日時	令和8年2月4日（水）10時01分～ 10時44分		
場所	弘前図書館2階 視聴覚室	傍聴者	0人
出席者	委員長 藤田 晴央 委員 浅瀬石 久仁子 委員 宮崎 新 委員 桶田 久美子 委員 北向 真衣 委員 佐々木 隆		
欠席者	副委員長 井上 諭一 委員 帆苺 基生		
事務局側出席者	郷土文学館館長 小田桐 康眞 郷土文学館企画研究専門員 櫛引 洋一 弘前市教育委員会生涯学習課長 中川 元伸 弘前市教育委員会生涯学習課主査 坂崎 春子 図書館・郷土文学館運営推進室長 高橋 貢 図書館・郷土文学館運営推進室主事 福原 健		
会議の議題	(1) 令和7年度第2回運営委員会後に寄せられた意見等について (2) 議事 郷土文学館観覧料の無料化について		
会議の結果	「会議の議題」に基づき説明し、委員からの質問や意見を伺った。		
会議資料	・資料1 郷土文学館運営委員会の趣旨及び役割等について ・資料2 郷土文学館観覧料の無料化について		
会議内容			
司 会	<p>ただいまから、令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会を開催いたします。本日の会議でございますけれども、概ね1時間を予定しております。議事進行にあたり、十分な質疑の時間がとれない場合は、お手元に配布しております意見等記入用紙にご記入いただき、後日回答させていただきますので、みなさまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。議事に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。資料の1、2、意見等記入用紙を配布しておりますのでご確認ください。よろしいでしょうか。それでは会議に移ります。会議の議長は、委員長が務めることとなっておりますので、以降の進行は委員長にお願いいたします。</p>		

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

<p>議 長</p>	<p>それでは、しばらくのあいだ、議長を務めさせていただきます。会議の進行にご協力のほどよろしく願いいたします。ただいまの出席委員は6名になっておりまして、委員の半数以上のため、本会議は成立しておりますので、さっそく会議に入ります。次第2、令和7年度第2回運営委員会後に寄せられた意見等について、事務局から報告をお願いいたします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>いただいたご意見は、若い人と郷土文学館を結びつける役割を果たしていきたいと思いますが、実現には人手不足が心配されます。高校生を動かせるワークショップなどが実現できればと思っております、というご意見、いただいております。</p>
<p>議 長</p>	<p>どうもありがとうございます。ただいまの報告について、ご意見、ご質問などございますか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>毎年、弘前高校と弘前南高校、見学とか講座等で解説させていただいて、全員からアンケートいただいておりますけれども、地域と文学ということで、今まで知らないことがたくさんあったことに驚いているということとか、全日本クラスの文人であるんだけど今まで知らなかったとか、いろんな感想があって、高校生に対して郷土の文学を解説、見学するというのは非常に手応えを感じております。このようなご意見がありましたので、ワークショップとかそういったことも、どういうふうにやればいいのかとか、そういったことを確認できれば、文学館の方としては前向きに考えていきたいと思っております。</p>
<p>議 長</p>	<p>ありがとうございます。ほかにみなさま、今のテーマについてございますか。今の話に触発されて。今、活躍されてる作家や詩人の、高校時代の生徒会誌なども展示するようなかたちもそれにプラスして、面白いのではないかなと思いました。はい、どうぞ。</p>
<p>委 員</p>	<p>実際、高校生が文学、文人たちを知る機会にもなるということで、私自身、生徒にやらせてることは、生成AIを使った解説動画みたいなもの。今、いろんな使い勝手のいいものも出ていて、ウェブ上のデータも全部引っ張ってきて、自分たちでファクトチェックする中で、それが正しいかどうか、学んでいくこともできる。例えば、弘前中央の先生方にも協力いただいて、100枚ぐらいのスライドをつくったものを、15分か20分ぐらいで音声付きの解説動画にできちゃうので、文学系で好きな人たちの探究活動の1つとしてつくってみようというのをやれるかなとは思っています。ただ、こちらのほうでのワークショップではないんですけど、そういうかたちでコラボさせていたりということは意外とすぐできちゃうことだなとは思っているので、お話を繋いでいっていいのかなかということまでお聞かせいただければ。</p>

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

議 長	今のご意見になにか。
事 務 局	さきほど申し上げたようなかたちに繋がると思います。
議 長	わかりました。ほかにございますか。 (なし)
議 長	ないようですので、次第3、議事に進みます。(1)郷土文学館観覧料の無料化について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	内容につきましては記載のとおり、すべての観覧者の観覧料を無料とすることについて、ご意見を伺うものでございます。無料とする理由ですが、郷土文学館の観覧者数は、開館した平成2年の1万5,306人が最も多く、以降減少が続いております。企画展などの効果と思われる変動はあるものの、開館当初の観覧者数に迫るような動きが見受けられないことから、追手門広場を訪れた図書館利用者や観光客などが気軽に入館しやすい施設とし、郷土の文学に関心の低い人にも弘前市出身の作家や文学作品を知ってもらい、郷土を知り郷土に愛着を持つ市民や、当市に関心を持つ関係人口の増加につなげるというものであります。観覧料の無料については、これまでの会議の中でも話題に上がり、賛否様々なご意見いただいておりましたが、改めて、期待される効果や懸念されること、あるいは配慮すべき点など、及ぼす影響などについて、文学館の存在意義にも触れながらご意見を伺うものであります。文学館のこれまでの観覧料の推移についてご存じない方もいらっしゃるかと思いますので、少しお話ししますと、開館当初は、当時、教育委員会で所管しておりました、追手門広場の旧東奥義塾外人教師館と旧弘前市立図書館、あとは郷土文学館の3館共通の観覧料として設定し、小中学生で150円、高校生一般が300円、その後、物価上昇の影響で平成6年度からは小中学生が160円、高校生一般が320円としておりました。平成17年に外人教師館を観光館付属の喫茶室、旧図書館も観光資源として活用することとなり、3館中2館を無料化、文学館につきましては、有料が1館となったことや、見直しによる誘客への期待ができることなどから、現在の観覧料を引き下げ、現在に至っております。参考までに申しますと、旧図書館の観覧者数は、開館初年度は8,212人、以降減少が続きましたが、無料化した平成17年度は1万5,464人と、前年度の4,022を1万人以上上回り、以降も順調に伸び続け、平成6年度には3万5,792人となっております。
事 務 局	補足説明させていただいていいですか。今、説明があつたんですが、郷土文学館の無料化を検討するというので、事務局のほうを進めております。今のお話にもありましたが、郷土文学館は平成2年の開館から今年で36年を迎えることとなります。観覧料の見直し、無料化に当たりまして、郷土文学館の必要性、意義、魅力、

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

事務局	役割などについて、改めて委員のみなさまからご意見をお伺いしたいと思います。生涯学習課としましては、郷土文学の保存と発信として、著名な作家作品や関連資料の収集、展示など、郷土文学的遺産を後世に伝える役割。もう1つが、地域文化の振興として、市民が郷土の歴史や文化に誇りを持つ機会の提供。最後に、体験学習機会の提供として、学校の授業と連携した、児童生徒が郷土文学に触れる貴重な体験学習の場の提供。大きく3つがあるかと考えております。このほかに、委員のみなさまから見た郷土文学館の必要性、存在意義、魅力、役割、活用方法、期待することなどにつきましても、あわせてご意見を伺えればと思っております。
議長	どうもありがとうございました。ご質問、ご意見ありますか。
委員	児童生徒に対するガイダンスというか、具体的には、今、どんなことがなされてるんでしょう。
事務局	ガイダンスというのは、生徒さんが来たときにどういう対応をと。
委員	学校に働きかける働きというのは、どういうことなさってらっしゃる。
事務局	毎年4月に市内の小中学校長会議というのがありまして、教育施設等の各事業の内容について説明していきまして、郷土文学館につきましても、例えば陸羯南の出前授業があるとかですね、それから文学者の展示があるので、来ていただければ解説もしますよということでは説明をしております。
議長	ほかにみなさん、ご意見、ご感想ありますか。
委員	こちら観覧料、無料にするということで。令和6年度でいきますと、年間で観覧料の収入が19万9,450円ですか、こちらが基本的にゼロになるということで、そうなった場合のこの、予算的なものといえいいか、どういう補填なり見通しがあるかというのは。
事務局	令和6年度でいきますと、入館料が約20万円。指定管理で運営しているんですけども、そちらの指定管理の人件費を単純に比べますと、1人で観覧料の徴収事務だけをやってるわけではないので比較は簡単にはできないんですが、だいたい人件費で200万超かかっているのに対して収入が20万円ということで、徴収事務の負担が大きいのかなと。逆にその時間があれば、違う企画とか、事業の充実を図ることができるのかなということで。お金の話もあるんですが、タダにすれば、今まで100円払うというのが負担になっていて、入口まで来るんだけど帰っちゃう方もいると。特に観光客の方は多いという、窓口のほうのお話も聞いてますし、私も仕事で来て、旧市立図書館のほうは旅行会社の方がツアーで来て入って、素通りしてい

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

事務局	<p>くのが結構多く見られるので、それよりは、100円という金額のハードルを下げれば、市民の方も、観光客の方、観光館に来てお土産買って、旧図書館見て、山車展示館見てとなれば、人の回遊性は上がるんじゃないのかなということで、今回、無料化の検討をしていました。あわせて、新聞等でもご存じかとは思いますが、4月から博物館の観覧料も見直しになってまして、市内の大学生までは無料化と。一般の方はこれまでどおり300円ということなんですけど、博物館、高岡の歴史館も大学生までは入館料を無料。ただ、市外から来る方は300円から500円と上がるんですけど、そういうかたちで料金の見直し、教育委員会関係の施設ですけど、かけてる状態で。であれば、郷土文学館も無料化すれば、これまで以上に来ていただいて、文学のことを周知できるのかなということで、今回、無料化を検討するという事になって。お金だけの話ではないので、全体的には弘前の魅力向上に上がるんじゃないかというところになります。</p>
委員	<p>例えば収蔵品なり企画展なりにかかる予算的なものが、それによって大きく、年間20万円ということでもあるんでしょうけど、そういうものにはあまり影響出ないようなかたちで。</p>
事務局	<p>影響はありません。</p>
議長	<p>ほかにありますか。これは私がそう思ってるという意見じゃなくてですね、例えばというかたちで考えると、お金を払った人のほうが関心があって入る方だと思うんですね。無料だから入るといふ、その方は本当に見ていくんだらうかということもあると思うんです。文学館というものの役割とはなんなんだろうというふうなことも少し考えます。ですから、あらかじめ興味のある方は100円程度であれば払うのではないかというふうな、仮説ですけども、考え方もあります。その点、現場の忌憚ない感じ方をお伝え願えればと思うんですが。</p>
事務局	<p>郷土の文学ということなので、どうしても地味な印象を受けて、図書館までは来るんだけど、隣の文学館には来ないというふうな意見がよく聞かれておりました。もう開館して36年目を迎えるんですが、図書館にはしょっちゅう来てるけども、初めて文学館に入ったという人の感想を聞きますと、入ってみて、実際に資料とか写真とか文章とか読んでいくと、こんなにいいもんなんだなというのを初めて気が付いたと。そういった意見がありますので、最初から興味がある人だけではなくて、間違っただけとか、あるいはあまり興味なくて入ったけれども、実際に見てみたらなかなか魅力があるなという場面が多々見られる感じがしますので、そういったことでやはり、入って見ないとわからないというのが文学館じゃないかなという印象を持っておりました。</p>
議長	<p>大変参考になりました。ほかにご意見。</p>

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

<p>委員</p>	<p>建物の構造が、一旦図書館から外へ出てますよね。中から入れるようにすれば、閲覧者がこちらへ回ってくる確率が多くなると思うんです。その時に図書館で借りるほうがタダなんですよ。だから、やっぱり無料化というのは、図書館のほうの利用者がこちらへ来るとい、そういう確率は上がるんじゃないかな。値段の件に関しては、どんなものを見せるかとかたちで価値が決まると思うんですよ。大学の授業料というのはどのぐらい学べるかで決まるんだよと、だから、ただ安いからいいとか、高いから良くないとかそういうことではないよとおっしゃった先生がいて。だから、本だけで見てると、ここで展示で声や映像やそういったものを見ることで、もっと深まるというような認識があれば、図書館の利用者がもっとこちらへ来るんじゃないかなと。一旦外に出てそれからまた入ってくるというのがちょっと手間かなと、足が不自由になってよくわかるようになりました。とてもいい文学館なんですから、もうちょっと入口にね、工夫をすれば。値段のことはやってみないとわからないような気がするんです。とんでもない人が入ってきちゃうとか、そういうこともあり得るし、タダだと。それから、お金を払っても、これだけのものを見せてくれたら安いと感じる人もいると思うんです。だから、お試し期間みたいなものがあったらいいかなということです。</p>
<p>議長</p>	<p>今のお話は、図書館から郷土文学館に繋がる入口が、なんか薄暗い入口になっていて、職員しか入れないかたちになってるんですけども、あそこをなにか、明るいかたちで工夫できたらいいなと。前回も申し上げたんですけども、そんなことを1つ考えました。あと、後半部分でおっしゃった料金のことで、お話を触発されて思ったんですけども、よその展示会なんかでも、基本料金と別に、特別企画展のときは高いときが結構あるんです。それをヒントにして考えると、一旦基本を無料にして、特別企画展のときは、200円なら200円もらいますよというふうなことを許容した改革にするという案もあるのではないかなと思いました。ほかになにかありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>さきほど博物館のお話が出て、無料化のチラシのほうで見たんですけども、発端が外人教師館と共通の料金でやっていたというような話も聞きまして、そういうふう考えたときに、郷土文学館が単独で無料というのをPRとかじゃなく、博物館さんと、弘前市民の方に、そういう文化とかに触れるようなものが、弘前市では今後、主要な施設が無料化になるんですよと。それに付随して、観光客に向けるのであれば、外人教師館なり旧弘前市立図書館のほうも無料なんだと、文化なり観光なりの主要な施設というものが、4月からなり、大きく、無料化になるんですよというような宣伝とか、PRしていくことが重要なかなと。料金でいろいろ話があったところは、有料化なり特別展示という企画展なりでの徴収ということもすごく一理ある話だなと思うんですけども、無料化というふうにするのであれば、やはり対象を大きくして、大きく市民なり観光客にアピールできるような、そ</p>

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

委員	<p>ういうPR方法を考えるのが重要なと思います。</p>
議長	<p>今の話にも関連しますが、その場合、郷土文学館に関しては、市内と市外を区別しないほうが良いと思います。それは、さきほどのご説明にもあったように、ツアーの方が入ってきて、その中に興味を持って見てくださる方もいらっしゃると思うんです。そのことを考えると、市外県外の方を博物館のように、300円から500円にするようなかたちはちょっとよくないと思います。無料にするなら等しく無料がよろしいかと思います。ほかにございますか。なければですね、ここで終了になってしまいますが、なにかいい足りないこととかありましたら、まだお時間あります。</p>
事務局	<p>今、無料についてお話、ご意見いただいたんですけども、さっき、大体3つぐらい大きな役割があるようなお話させていただいたんですが、それ以外にですね、こういうことも魅力あるよとか、それだけ、もしあればお聞きできればなと思ったんですが、どうでしょうかね。</p>
委員	<p>さくらまつりのときに、祭りの会場にパネルを置いて、こんな文学者がいたんだよというような宣伝したらどうでしょう。文化でやっぱりその街、あるいは国というものは栄えるんだっていうことを、ラフカディオ・ハーンが文学論の中で書いてるんですね。武力とか力じゃなくて文化なんだと。これだけの文化を持ってるんだよ。お茶やっていたんですけども、弘前のお菓子、おいしいんです。東京の恵比寿の街の和菓子よりも弘前の和菓子のほうがおいしくて。東京の和菓子ちょっと自慢しようと思ったら、こっちのほうがおいしくて。そういう文化があるんだよっていうことをもうちょっと、さくらまつりやなにかと結びつけて。もみじなら紅葉のときになにか展示したら。雪だるまでもいいですし、そういうちょっと、市民に対して、観光客に対してもアピールをしたらどうかなという。できたら、小中学生にボランティアを募って、雪だるまになにか歌を詠ませるとかね。陸奥新報さんの観桜俳句大会も、入賞者やなにかがやって来たら、少なくとも入賞した人は家族を連れて、俺の俳句が展示されているんだぞと、連れてくると思うんですね。みんな、伝手で人は動くわけですから。そういう、観桜俳句大会の入賞者あるいは参加者の俳句を置くとか、そういったものをしたら、今、こういう文学活動がなされているということも面白いんじゃないかなと思います。</p>
委員	<p>今、ボランティアのことがちょっと出たんですけど、私が感じる魅力はやっぱり、解説員の方の解説で耳に入って、目で資料を見てというのが本当に魅力だなと思っていて。いろんな観光客の方に毎回解説するというわけにいかないなので、例えばボランティアで中高生に、中高生ボランティア解説の日というので、前段階で生徒に対してこういうことをやりましようみたいな時間とるかもしれないんですけども、ちょっとした資料を読み上げるでもいいので、若い人に解説してもらおうというの</p>

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

委員	<p>が、その家族も見に来るだろうし、面白いのかなと思っています。</p>
委員	<p>文学館のあることの魅力についてなんですが、全国からいらっしゃるお客さんに、この文学館が無料でいいのか、みたいな話、よく聞きます。500円でも1,000円でも出せる価値のあるところではないかと。それは県の近代文学館でも同じです。他県の文学館とか、北海道から花巻、松江の小泉八雲とか、山梨でも、だいたい入館料をとっているし、グッズもたくさん売ったりして、そこを中心に魅力発信していると。無料化に対しては、私は賛成です。県の近代文学館も無料なんですが、これは、実は日本ではかなり先進的な試みで、ヨーロッパ的な考え方だと思います。おそらく、創設した人たちが、市民とか県民の人たちに、自分たちの郷土をまず知ってほしいと。つまり、お金を出す者出さない者にかかわらず、そこは税金で、先人のことを、子供たちをはじめ、いろんな人に見せるという、そういう強い特色があるので、そのことの価値をまず、みなさんにわかっていただく。無料というのはとても価値のあること、特に世界に冠たる太宰とか寺山とか棟方志功とかを冠するから、分け隔てなくみんなに、こういうすばらしい文化があるということを見せるのだというところでいうと、たぶん、他県とは差異をつけられる。ただ、無料化する場合に、例えばこれはもっとお金出してもいいんじゃないかという人のお金の受け皿が必要だと思っていて、そのために協賛金とか寄付金制度を設けたほうが良いように思います。北海道文学館でも神奈川文学館でも、大きいところは必ず協賛金、寄付金。で、寄付した人の名前はどこかに、例えばパンフレットに載せるとか、この壁に載せるとかして。要するにねぶたと同じ発想ですね。青森県のねぶたというお祭りは、誰でも見ることができる。タダでみんなが平等に楽しむために、お金のある人が協賛してねぶたをつくっていくってところが、たぶん、日本の祭りの中で、世界の祭りの中でも素晴らしいところだと思うので。こういう文化を支えたいという人たちのための受け皿と、あとは物販。記念の品を買っていきたいという人が多いので。今、例えばパンフレットなんかは販売してるんですけども、観光館の物販のコーナーに郷土文学館のコーナーをつくって、そこに例えば郷土文学館と地元の企業によるお菓子とか、それから文房具とかそういうものを置くコーナーをつくって、その収入を、例えば文学館の職員であるとか、収蔵するのにもお金かかるし、調査研究にもお金かかりますので、そちらのほうにまわしていただけるシステムをつくっていただければいいのかなというふうに思います。それから、学校側との連携ということですけども、これまで多くの職員の方が一生懸命そういうのをやってきて、中高生のほうも、県の高総文の文芸部門とか、それから放送部門、演劇部門では、ぜひ地元のそういう文化を知りたいという需要もあります。なので、そのあいだをつなぐ団体として、今、地元若い演劇の団体ができ上がってきておりますので、そういう中間支援団体に入っていただいて、郷土文学館で展示しているものの朗読体験を小中学生にする機会を設けるであるとか。なにか、中高生のボランティアを育てるにしても、そういう、表現が得意な方たちの手を借りて、小中高に広げていくというのがいいのかな。そこに例えばアップルウェーブさんと</p>

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

委員	<p>かにも加わっていただいて、あるいは新聞社さんにも加わっていただいて、中高生が表現して放送する機会とか、新聞に自分たちのそういう、郷土文学を調べたことが載る機会とか、あるいはSNSにそういう場所ができるみたいな、場所をつくっていただけるといいのかなというふうに思っております。まとめますと、弘前が学都として無料化が非常に先進的な試みである。弘前の学都、これまで学都をつくってきた人たちへの敬意を込めて、それを市民と共有するために無料化するのであるということ进行全面に押し進めていただければ、無料化には賛成です。</p>
委員	<p>私は郷土文学館の魅力として、郷土の弘前に関わりのある文学の人の情報とかを詳しく、一気にまとめて見られるというのが魅力だなと思っています。今回の無料化について、私も、より多くの人ハードルが低くなって来館しやすくなるというのはあると思うので、賛成です。資料の収集とか収蔵とか、管理というのもお金がかかることなので、無料にしてみても、いろいろ金銭的な問題が出てきたときの1つの選択肢としてなんですけど、期間が定まった無料券みたいなのを配布するのもいいんじゃないかなと思っていて。八戸市にある是川縄文館というところがあるんですけど、「またきてね券」というのを発行していて、例えば1年間のあいだに、その券を持ってもう1回来たら、無料で館内を見れますよ、みたいな券なんですけど、そういうのを発行して、もう1回来てもらおうというのも、選択肢としてはいいんじゃないかなと思いました。</p>
議長	<p>ほかにございますか。まだ少しお時間があるので、私のほうから。まず、郷土文学館というのは、その展示物自体が魅力がないとやはり駄目だと思うんですね。そのパワーによって人々が来てくださるということですね。そうすると、開館からもう何十年も経って、同じ展示を続けてるといのはやはり、言葉がちょっといい過ぎかもしれませんが、なにもしていない、あるいは前例をそのまま守っていくというふうな、なにかお役所的なやり方だと見られても仕方がない。これはやはり、お客さんと呼び込む施設なんだということ。そのためには、文学館としての発信力をもっともっと、新しく強くしていかなきゃいけないということで。もちろん開館のときのいきさつというのはあるでしょう。しかしそれにこだわってはいけません、いつまで経っても変わらないわけですね。今のは原則論として私の意見です。あとは仮の話として続けるとですね、弘前ゆかりの文学者として、人がいっぱい来るのは、太宰治と寺山修司です。その人たちをもっと前面に押し出した展示に衣替えしていく。そして、その展示内容も大変深いもの、弘前の文学館に行けば、太宰と寺山についてこれだけ知れるんだ、というふうな、そういう、きらめきを持った文学館になったら、日本の中でも有名な文学館になると思います。その点で、どこを変えればいいのかというのは、大変細かく長い話になるので今日はやめますけども、かなり大胆な改革というのを、いつかの時点でやらない限りはずっと、ある同じレベルでいて、また言葉が少し語弊がありますが、くすんだかたちの文学館にならざるを得ないような気がします。せっきくの機会なので、申し上げさせていただきました。</p>

令和7年度第3回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

議 長	ほかになにかございますか。 (なし)
議 長	それでは、ここで質疑を終了いたします。この場でお聞きできない質疑については、意見等記入用紙にご記入いただき事務局に、これは後日でもいいですね、提出をお願いいたします。これで、本日の議事はすべて終了いたしました。みなさまのご協力に感謝いたします。